平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	モダンデザイン(Modern Design)			授業コード	C167201
担当教員名	近藤　正一			科目ナンバリングコード	－
配当学年	2	開講期	前期		
必修・選択区分	建築コース(選択) インテリアデザインコース(選択必修) 環境・地域創生コース(選択)	単位数	2		
履修上の注意または履修条件	出席をとる代わりに、略設計やスケッチを要求することがあるので、各自スケッチブック等を用意してください。また、レポート提出に電子メールを活用することがあるので、大学の施設や携帯電話等で使用できるようにしておくことが望ましいです。				
受講心得	本講義では、さまざまな建築空間を紹介しますが、日頃から自らの空間体験を「文化の系」の中で考えることができるよう心掛けることをお勧めします。例えば、茶道をたしなむためには、ある程度の作法を身につける必要があるように、建築空間を心から味わうためには、その種の建築にまつわる文化の素養をもっていることが望ましいと思われます。講義内容を単なるモダンデザインの知識として覚えるだけではなく、教養として身につけられるように心がけてください。				
教科書	適宜、参考図書を紹介します。				
参考文献及び指定図書	毎回授業の内容に関連する優良図書を紹介します。				
関連科目	造形、スペースデザイン、建築計画1、設計製図1　など				

授業の目的	本講義は、モダンデザインを概観するために多くの時間を費やしますが、本当に重要なのは、デザインに関する教養を深め、デザインについて考え、論じることができるようになることです。英語に例えれば、単語や熟語をたくさん覚えることだけに満足しないで、話せるようになってほしいという願いに似ています。したがって、内外のすぐれた建築空間やインテリアエレメントなどを、単にこれらの事例を知識として知り、その形をなぞるのではなく、各自の建築空間体験に照らしつつ、その意味を自身の言葉で思考し直すことが望まれます。
授業の概要	建築やインテリアのデザインを志す者にとって必要となる基本的知識として、主に19世紀から現代に至るまでの西洋を中心としたデザインの歴史を解説します。とりわけ都市・建築・インテリア作品などとデザイン運動および建築家との関係について、できるだけ具体的に説明します。単なる歴史の流れという枠組みにとらわれず、幾人かの建築家の言葉や作品分析を通して、モダンデザインにおける空間デザインの変化を概観するとともに、近年の空間研究における新しい視点について、概説します。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： モダンデザインの潮流 19世紀から現代に至るまでの時代の大まかな流れについて、近代建築を中心に概観します。それらのエポックのうちの多くは、新技術であったり、ある一人の天才の系譜であったり、運動であったりしますが、各論は次回以降に譲ります。	配付資料 演習課題・解答例
第 2 週 ： モダンデザインの萌芽 時代は本来、区切ることのできるものではありません。小説や映画はかならず始めと終わりがありますが、人生がそこで始まり終わる訳ではないのと同様に、「それ以前」と「それ以後」とは連続しており、「それ」はリボンの一部に過ぎないということを理解するために、近代につながる近代以前のデザインについて技術史を中心に解説します。	配付資料 演習課題・解答例
第 3 週 ： 近代初期の運動 長かったモダンデザイン胎動期を経て、イギリスで始まったアーツ・アンド・クラフツ運動を皮切りに、アール・ヌーヴォやウィーン分離派、ドイツ工作連盟など、多くの新しいデザイン運動が生まれました。彼らの活動を連続的に概観します。	配付資料 演習課題・解答例
第 4 週 ： 近代初期のもうひとつの姿 運動にはつながらなかったものの、近代初期にきら星のごとく輝いた建築家がいます。オーギュスト・ペレ、ヘンドリク・ペトルス・ベルラーヘ、アントニオ・ガウディ、ルイス・サリバンらをとりあげ、その後のモダンデザインに対する影響について解説します。	配付資料 演習課題・解答例
第 5 週 ： 表現主義と構成主義	

ドイツ表現派やアムステルダム派など表現主義のデザインとデ・スティルやロシア構成主義など構成主義のデザインとは、一見相容れないかのように思われるかもしれませんが、じつは非常に密接な関連があります。20世紀初期のモダンデザインについて詳説します。	配付資料 演習課題・解答例
第 6 週 ： バウハウスとCIAM モダンデザイン、とりわけその後のインダストリアルデザインに対し、決定的な影響力を持つバウハウスと、いわゆる近代建築の考え方が世界中に大きな影響を与える場となったCIAMに関連する建築家、およびその時代背景について、解説します。	配付資料 演習課題・解答例
第 7 週 ： 近代建築の三大巨匠 巨匠と呼ばれる建築家の中でも別格とされるル・コルビュジェ、ミース・ファン・デル・ローエ、フランク・ロイド・ライトについて、作品と理論を概観し、彼らがその後のモダンデザインに及ぼした影響について解説します。	配付資料 演習課題・解答例
第 8 週 ： 日本における近代建築 20世紀以降、いわゆるモダンデザインは、日本においても広く普及しました。日本における近代建築の潮流は、未だ不明確な点が多いのですが、最新の研究成果をもとに日本のモダンデザインを概説します。	配付資料 演習課題・解答例
第 9 週 ： ブルータリズムとヴァナキュラー 戦後復興期を経て、近代建築は常に変化を続けています。戦後の建築史については、未だ不確定な部分が多いのですが、1940年代から60年代にかけて、時代の変遷とともにデザインも変遷していく様子をみていきます。	配付資料 演習課題・解答例
第10週： ポストモダン とりわけ日本からの影響が色濃く表れることの多いモダンデザインですが、ポストモダン建築はとくに日本に建つものが少なくありません。建築を情報としてとらえる考え方や構造主義、エイジアン・カオスの影響など、できるだけ多方面からアクセスします。	配付資料 演習課題・解答例
第11週： デコンストラクションとミニマリズム コンテンポラリーデザインの源流と思われるデコンストラクション（脱構築）と呼ばれる思想とモダンデザインの現在的解釈と思われるミニマリズム、およびそれらが建築に与えた影響について説明します。	配付資料 演習課題・解答例
第12週： インテリアデザインの潮流 これまで解説した内容を踏まえ、こんどはインテリアデザインに的を絞って、様式史、技術史および文化史として読み替えることにより、近代以前（18世紀）から現代（21世紀）にいたるまでの潮流について概説します。	配付資料 演習課題・解答例
第13週： インテリアデザインの巨匠 日本におけるインテリアデザインの位置づけについて説明したのち、シャルロット・ペリアンを中心に、インテリアデザインの巨匠とその社会的・時代的役割について解説し、およびインテリアデザイナーという職能の将来について説明します。	配付資料 演習課題・解答例
第14週： 空間という概念 「空間」という概念に着目することにより、モダンデザインを再解釈します。空間という言葉の様々なとらえ方を示し、たとえば名建築とされる具体的な事例を挙げて、とくに設計等に即効性のあると思われる空間分析の有効性をみていきます。	配付資料 演習課題・解答例
第15週： コンテンポラリー・デザイン 本来、モダンとコンテンポラリーはどちらも「現代の」という意味で使われますが、建築分野では近代と現代を区別するため、コンテンポラリーという用語が使われます。これまでの講義を踏まえ、現代のデザインをどう評価し、近未来のデザインがどう変容していくのかを考えます。	配付資料 演習課題・解答例
第16週： 期末試験 これまでの講義内容を試験範囲とします。試験時間は80分とします。筆記用具以外のすべての持ち込みは不可です。	配付資料 試験問題・解答例

授業の運営方法	（1）授業の形式	「講義形式」
	（2）複数担当の場合の方式	
	（3）アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	① 代表的な建築・建築家のおもな特徴と社会的・歴史的意味について調査し報告できる。
【知識・理解】	② 歴史、技術、風土、時代背景など、モダンデザインに関する基礎知識が身についている。 ③ 空間に関する代表的な分析方法について理解している。
【技能・表現・コミュニケーション】	④ モダンデザインの潮流と代表的な建築・建築家との関係について概説できる。

【思考・判断・創造】	⑤　モダンデザインについて論理的考察ができる。

〇成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	**期末試験・中間確認等（テスト）**	**レポート・作品等（提出物）**	**発表・その他（無形成果）**	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		**10点**		
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。	**70点**			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		**10点**		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		**10点**		

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

〇配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	**評価の実施方法と達成水準の目安**
レポート・作品等（提出物）	原則として毎回、講義の最後に授業内容について課題を出します。提出をもって出席に代えますので、課題が課されたら、かならず提出してください。達成水準の目安は以下の通りです。 ［Sレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 ［Aレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 ［Bレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 ［Cレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
発表・その他（無形成果）	授業の中で、適宜質問をします。優れた解答をした者は、記録して加点することがあります。